



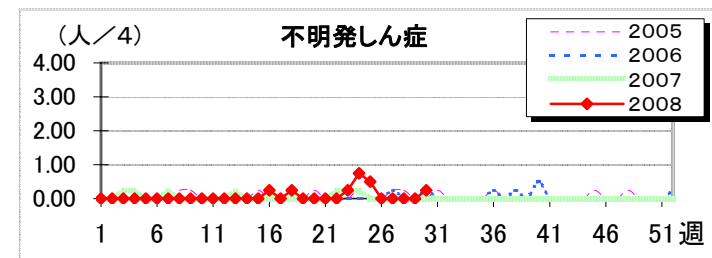
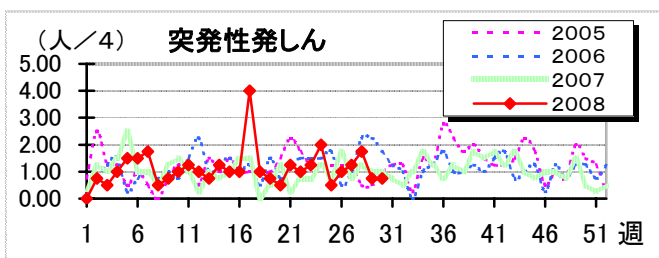
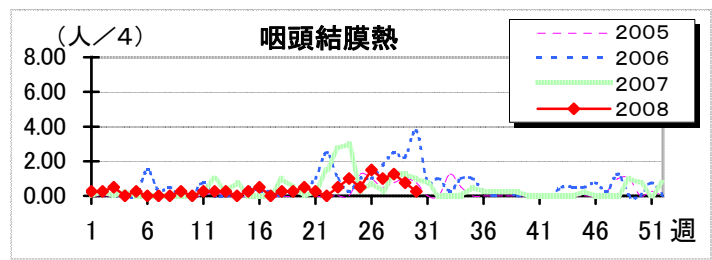
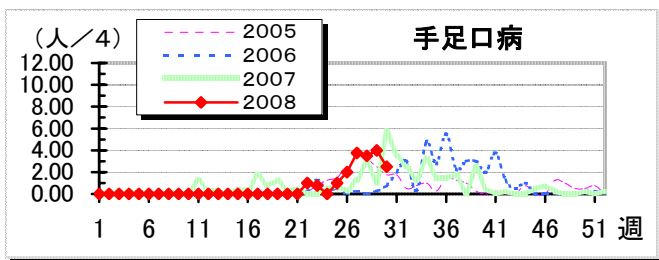
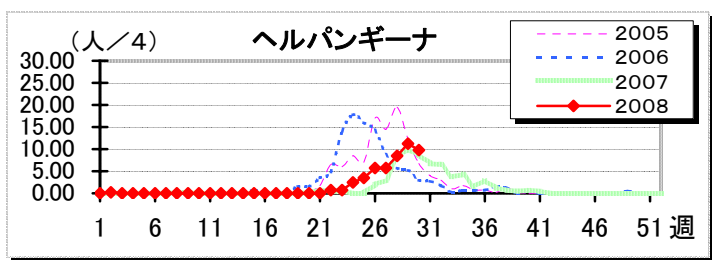
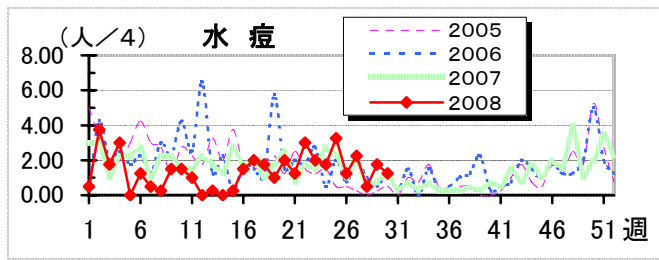
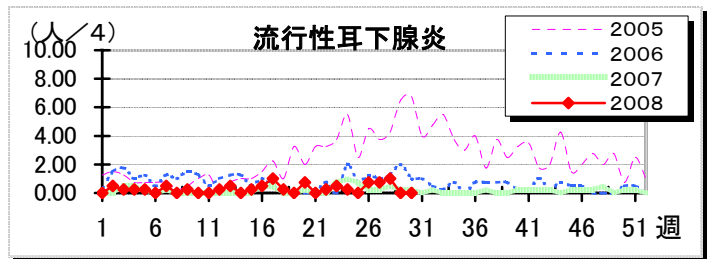
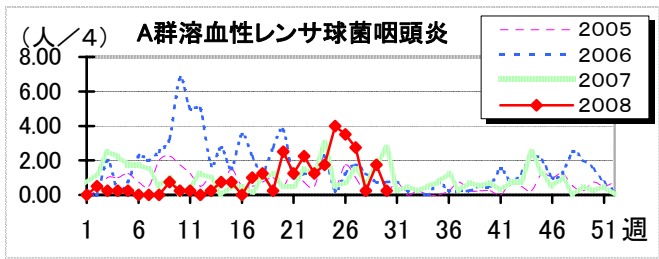
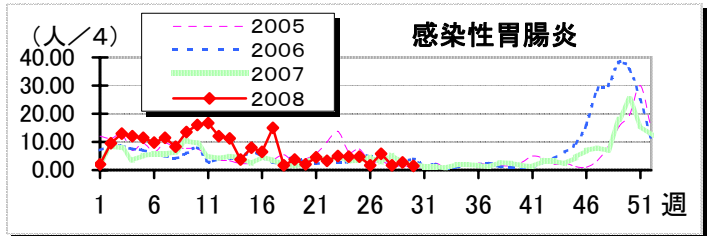
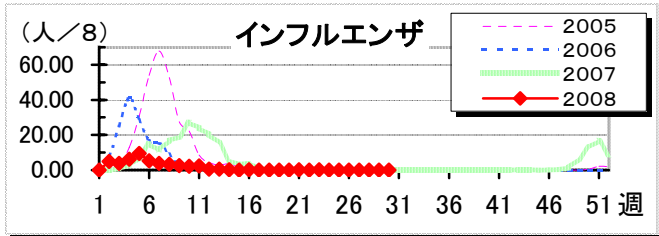
Infectious Diseases Weekly Report City of Kita

感染症発生動向調査／北区感染症週報

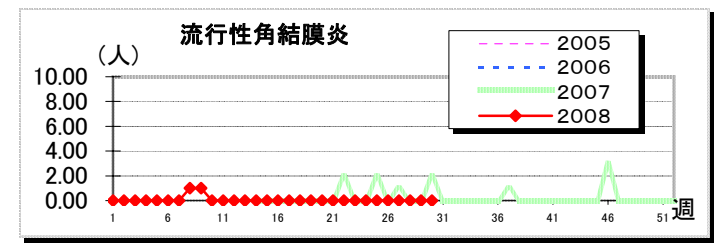
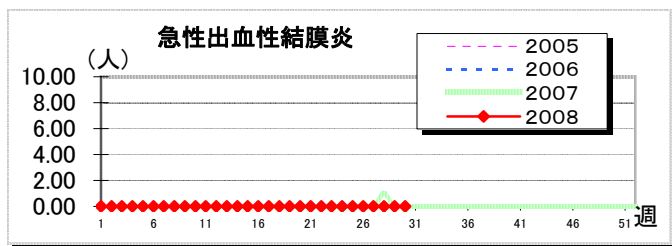
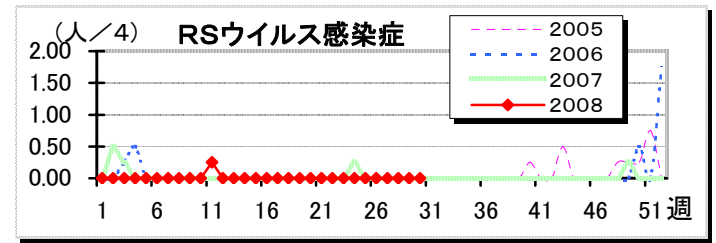
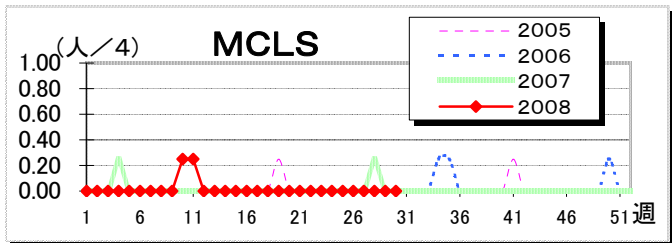
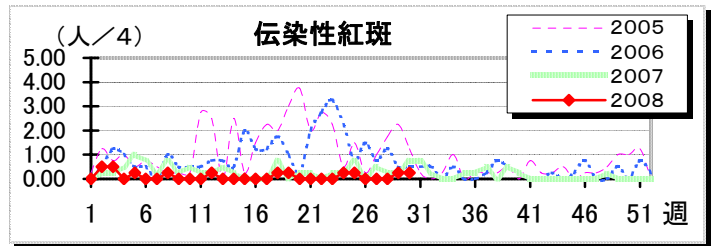
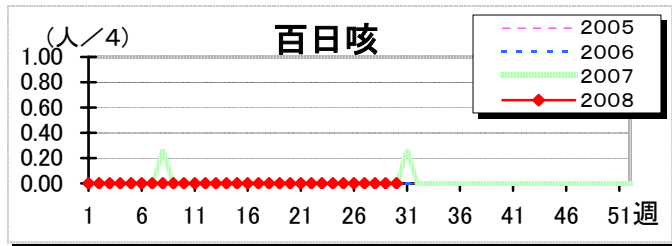
2008年30週(7月21日～7月27日)

東京都北区保健所 保健予防課 結核感染症係 電話 (3919)3101

1 北区感染症サーベイランス (4年間の北区一定点医療機関あたり報告人数)



- 疑似症サーベイランスが2008年7月より開始しました。
症例のある場合には、コメントにて報告します。
- 「麻しん」、「風しん」は2008年1月から全数把握対象疾患【5類感染症】になりました。



疾病別の<北区>定点医療機関数

疾病	医療機関数	疾病	医療機関数	疾病	医療機関数
インフルエンザ	8	手足口病	4	急性出血性結膜炎	1
不明発しん症	4	伝染性紅斑		流行性角結膜炎	
MCLS		突発性発しん		性感染症	
咽頭結膜熱		百日咳			
A群溶血性レンサ球菌		ヘルパンギーナ			
感染性胃腸炎		流行性耳下腺炎			
水痘		RSウイルス感染症			

※ 最近3週間の北区一定点医療機関あたり報告人数 (区内定点からの全報告人数/北区定点医療機関数)

	不明発しん症	MCLS	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
28週	0	0	0	1.25	0.25	1.75	0.5	3.5	0	1.75	0	8.5	1	0	0	0
29週	0	0	0	0.75	1.75	2.75	1.75	4	0.25	0.75	0	11.3	0	0	0	0
30週	0.25	0	0	0.25	0.25	1.5	1.25	2.5	0.25	0.75	0	9.75	0	0	0	0

2 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出数

	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	2008年累計
麻しん	2	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	24
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律から、最近の感染症発生動向を送付いたします。東京都および、厚生労働省による集計分については下記のインターネットのホームページでご覧になれます。

- 東京都感染症情報センターのホームページアドレス
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html>
 - 厚生労働省/国立感染症研究所感染症情報センターのホームページアドレス
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- (別紙) 定点把握対象疾患報告数【保健所別】、【年齢階級別】

今週のコメント (第30週)

- 北区では、引き続きヘルパンギーナ及び手足口病の発生の多い状況が続いています。

ともに夏場が増える感染症で、感染経路が同じで、患者のせき、くしゃみによる飛沫（ひまつ）や便に含まれるウイルスによって広まります。治った後も2～4週間は便にウイルスが残るため注意が必要です。とくに乳幼児が感染しやすく、乳幼児の場合は、原因となるウイルスはだ液やたんのほか、便にも混じるため、使用済みのおむつは、すぐに片付け、手洗いは指先から腕までしっかりと行うようにしましょう。帰宅したら、すぐうがい、食事前には手洗いをしましょう。おむつを片付けた後は特に念入りに手洗いをするようにしましょう。

 - 手足口病は、腸で増えた病原ウイルスが全身に広がり、手のひら、足の裏、口の中やひざ回りなどに直径二～三ミリの水疱（すいほう）ができます。高熱が出ることは少なく、熱が出ても37℃台か、全く発熱しないこともあります。基本的には軽症の病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを引き起こした例があります。ぐったりしていたり、嘔吐（おうと）や強い頭痛などが続く場合は早めに医療機関を受診してください。
 - ヘルパンギーナも、病原ウイルスが腸で増えることで発症します。手足口病と違って、38～40℃の高熱が数日続くことが多いです。のどの奥に水疱ができます。のどがとても痛いので、つばを飲み込めずによだれが流れ出たり、飲み物を飲むのも嫌がったりすることがあります。脱水症状にならないために、薬局などで売っている経口補液などを少しずつ丹念に飲ませて、水分補給するように心がけましょう。脱水症状になると、排尿の回数が減ったり尿の色が濃くなります。重症化する前に早めに医療機関を受診するようにしましょう。

- 夏休みに入り、野山に行かれる方も多いかと思えます。

野山には特有のダニが生息しており、そのダニに刺されることによって感染する病気があります。

 - 日本紅斑熱は、マダニに刺されることによって感染します。潜伏期は2～8日間で、全身に発疹がみられます。発熱、頭痛、倦怠感も伴います。体のどこかにマダニに刺された刺し口があるはずですが、まれに重症化し、死に至る可能性もゼロではありません。特に、西日本に多い病気ですので、中国地方・四国地方・九州地方の野山に行かれた方は注意してください。テトラサイクリンという抗生物質が効きますので、野山に行ったあとに上記のような症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

- 東京都全域の百日咳の定点当りの報告数は、一時期に比べ減少してきましたが、依然として多い状況が続いています。

区内の定点からの発生の報告はありませんでしたが、今年の特徴が成人の感染が際立っていることより、内科定点の医療機関にもご協力をいただき、情報の収集に努めていますので、その都度、週報で報告したいと考えています。

百日咳は、乳幼児が感染した場合は重症化することが多く、ときには死にいたることがあるので、ワクチンは確実にお受けください。成人においては、乳幼児に感染させることのないよう、咳エチケットを守るとともに、咳が長びくと感じたら百日咳を念頭に早めに医療機関を受診してください。詳しくは、東京都感染症情報センターのホームページをご覧ください。
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/pertussis/index.html>

- 咽頭結膜熱の報告は、以前のような増加の傾向はみられなくなりましたが、例年6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを示す夏期の感染症で、注意が必要です。咽頭結膜熱プールを介して流行することが多いので、プール熱と呼ばれて、症状は以下のものがあります。
 - ・発熱（38℃～39℃）
 - ・咽頭炎（のどの痛み）
 - ・眼症状（目の炎症、結膜炎）

咽頭結膜熱の予防のためには、

 - ・感染している人との接触は避けること。
 - ・流行時にうがい、手指の消毒を励行すること。
 - ・水泳前後のシャワーを励行すること。

以上を守るようにしてください。

(参考) 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出状況【グラフ】

